



2006 年度 国際政治 期末試験講評

1. 期末試験の採点について

〔問題〕

I 最初に、以下の「問題群」から、ひとつだけ選択しなさい（番号に○をつければよい）。

(1)パレスチナ紛争 (2)地球温暖化 (3)大量破壊兵器の拡散 (4)国際テロリズム (5)先進国と途上国の経済格差

II 次に、その問題を解決・改善するにあたって、以下の国際行為体が、それぞれ、具体的に、どのような役割を果しうるか（果たすことが期待されるか）につき、できるだけ実名（国名・団体名・人名など）を挙げつつ、論じなさい。

a. 主権国家 b. 国際連合 c. 国連専門機関 d. 地域的国際機構（例：欧州連合） e. 非政府間国際機構 f. 個人

※解答では、a.～f. のすべてに必ず言及すること。「何の役割も果しえない」と考える場合も、そう考える理由を明示すること。

※採点は「講義内容を踏まえているか」「記述は具体的か」「空論に陥っていないか」「無駄な記述を含んでいないか」などを重視する。

①採点に際しては、最初に下記の諸点に留意しつつ、大まかなチェックを行いました。

I. 解答の形式的条件を満たしているか。

→「a.～f. のすべてに言及していないもの」や「何の役割も果しえないとしながら、その理由を明示しないもの」については、大きく減点しました。

II. 論旨の明快さや論理性が、大学生にふさわしい水準に達しているか。

→一読して「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案は、大きく減点しました。また、段落分けがきちんとなされず、ダラダラと改行もなく書き続けている答案も、減点の対象としました。心当りのある人は、作文の授業で習った「段落」の意味について、きちんと復習しておいてください。

III. 「基本的なミス」を犯していないか。

→たとえば「国連のPKOは、国連専門機関の一つである」などという「基本的な誤り」を犯している答案は、その誤りに応じて、大きく減点しました。

②つぎに、以下のようなポイント（論点）をきちんと押えているか、チェックしました。

I. 適切な具体例や、実名（固有名詞）が挙げられているか。

抽象的な議論に終始している答案は、それなりに減点しています。

II. 相互の関係について触れられているか。

たとえば「国家」「国際連合」「非政府間国際機構」のうち、どれが一番重要な役割を果たし得るのか、といった「相互比較」がなされている答案には、加点してあります。

逆に、単に「a. 国家：～」 「b. 国際連合：～」という具合に、個々の国際行為体について、ただバラバラに説明し、相互の関係にまったく触れていない答案については、あまり高い評価をつけていません。

III. 「できないこと」について触れられているか。

それぞれの国際行為体が、いかなる役割を果たしうるか、について論じる場合、当然ながら「この部分については大きな役割は果たし得ない」という指摘も必要となります。これがきちんとできている答案（ほとんどありませんでしたが）については加点しました。

IV. 「空理空論」に陥っていないか。

問題文にも明記した通り、「空理空論」を振り廻していても仕方ありません。「国連を改革して拒否権を廃止するべき」とだけ書かれても、なぜそれが実際に行われていないのかについて考察しなければ、高校生の作文になってしまいます。

V. 解答の分量が不足していないか。逆に、無駄な記述を含んでいないか。

解答時間は60分あるわけですから、それなりに分量が書かれていないと、全体の評価は下がります。

また反対に、出題と全く無関係の事柄がいろいろ書かれている場合も、やはり評価は下がります。「書いておけば損にはならないだろう」とでも思ったのか、「EUの加盟国は25か国で、ノルウェーとスイスは未加盟である」などと、答案の論旨とは無関係の記述を含む答案が、多数見られました。そんな知識を書かれたところで、結局「何が言いたいのか、よく意味の分らない」答案になるだけですので、全体としての印象は悪くなります。ここで明言しておきますが、そのような答案は**大きく**減点しました。これからは「必要なことだけを、簡潔に分かりやすく書く」能力を磨いて下さい。ちなみに書き終わっていない「未完結の答案」も、採点の対象にはしましたが、それなりに減点してあります。

③最後に、誤字脱字など、形式的なミスについてチェックをし、あまりに酷いものについては減点しました。こう書くと必ず、「読めればいいのではないですか」といいます学生が出てきますが、では同じように、誤字脱字だらけの履歴書やエントリーシートを、就職活動で提出したら、どういう結果になるかを考えてください。試験中は辞書を引けないので、ある程度までは大目に見ていますが、問題文にある漢字（「専門」「途上国」など）を間違っているなど、あまりに酷いものは減点の対象としています。

④その後、すべての答案に点数をつけて集計してみたところ、60点未満の答案が非常に多くなりましたので、若干の得点調整を行いました。その結果「本来ならば不合格」とされるべきところを、あえて合格とした答案が、かなりの枚数あります。心当りのある人は、今後大いに精進して下さい。

なお、自分の答案について、より詳しいコメントを希望する学生は、後期に入って成績が正式に発表されてから、オフィスアワーの時間（水曜2限）などに研究室まで来てもらえれば、随時対応します（不在がちなので、できれば事前にメールで連絡を入れてもらえるとありがたいです）。ただし、成績の変更（確認）を要求する者は、別途「成績確認制度」の方を利用してください。

2. 成績分布について

①科目登録者全体における成績分布

A : 13.3% B : 7.6% C : 30.7% X : 29.3% 無資格・欠席 : 19.1%

②期末試験受験者における成績分布

A : 16.5% B : 9.3% C : 37.9% X : 36.3%